

IT パスポート試験に対応した情報科目の実践と改善

宮川 祐一

仁愛大学人間学部

Practice and Improvement of Information Education for the Information Technology Passport Examination

Yuuichi MIYAGAWA

Faculty of Human Studies, Jin-ai University

情報処理技術者試験の大幅な制度改定がされて、職業人として誰もが共通に備えておくべき情報技術に関する基礎的な知識を測るレベル1の試験である「ITパスポート試験」が2009年から実施されている。本学人間学部においては、学部共通科目の情報科目として6科目を開講しているが、そのうち1科目をITパスポート試験に対応した授業内容としている。その受講生の成績から、得点にばらつきが大きいこと、計算(応用)問題の苦手な者が多いことが判る。知識に関する選択問題については、繰り返し学習によって成績向上を図ることができ、計算問題については授業時により多くの時間を割くことによって改善が期待できるものと考えられる。他大学の取り組み状況や適切な教材付きテキストの選択、および適切な授業時間数の検討等によって、ITパスポート試験シラバスにも合致した授業内容の改善に取り組んでいきたい。

キーワード：ITパスポート試験 授業評価 情報処理技術者試験 IT人材育成

1. はじめに

情報処理技術者試験は、1970年(昭和45年)に始まって以来40年以上が経過し、これまでの応募者数は延べ千六百万人、受験者数は延べ一千万人を超え、合格者数は延べ二百万人に近づいてきている。単年度の2010年度だけをみても、応募者数は約62.4万人、受験者数は約44.4万人、合格者数は約11.9万人という大規模な国家試験となっている¹⁾。

ところで、2001年にはe-Japan戦略という国家戦略を策定した。これは「すべての国民が情報通信技術(IT)を積極的に活用し、その恩恵を最大限に享受できる知識創発型社会の実現に向け、早急に革命的かつ現実的な対応を行わなければならない。我が国を世界最先端のIT活用国家にして国家競争力を高める」というもので、目標を達成するためのIT人材の育成強

化を謳っている。

その後の2008年の「IT政策ロードマップ」で示された工程表においても、「IT分野の優秀な人材を安定的・継続的に育成し輩出するための仕組みの構築」が施策例として挙げられている¹²⁾。

2011年8月3日改訂の「新たな情報通信技術戦略 工程表」の中にある「高度情報通信技術人材等の育成 工程表」では、文部科学省は「情報系以外の様々な分野において情報通信技術の知識・技術を身につけた人材の育成」に取り組むことが記されている。

教育の場においては、工業系や商業系の高等学校、専修学校、情報系の短期大学や高専・大学においては情報関連科目がカリキュラムに組み込まれ資格取得等を推奨している。一方、文科系の短期大学や大学においても、資格支援・キャリアアップ等の目的で取得を薦める大学も増えてきている。

2. IT パスポート試験の背景・経緯

2.1 情報処理技術者試験の変遷

1969年(昭和44年)に通商産業省にて「情報処理技術者認定試験」として創設され、翌1970年に情報処理技術者試験制度として試験が実施された。この試験では、第一種情報処理技術者・第二種情報処理技術者、そして、1971年に特種情報処理技術者、1986年に情報処理システム監査技術者、1988年にオンライン情報処理技術者の区分ができた。なお、この試験は、他の国家試験と異なり、合格者に対して資格や免許等を付与する試験ではなく、すなわち、合格者でなければ情報処理の業務に従事できないといったものでなく、情報処理技術者として備えるべき一定水準の能力、技術等について認定するという数少ない国家検定試験の一つである(情報処理技術者試験は「情報処理の促進に関する法律」に基づく国家試験である。)

1994年(平成6年)に試験制度の改定があり、11試験区分となり、システムアドミニストレータ試験が始まった。さらに、2001年(平成13年)に試験制度の改定があり13試験区分となり、現行の試験制度は2009年(平成21年)の改定により、12試験区分にて実施されるようになり、ITパスポート試験(Information Technology Passport Examination)が始まった¹³⁾。

実施主体の変遷もあったが、現在は情報処理推進機構(IPA: Information-technology Promotion Agency)情報処理技術者試験センターが実施している。基本的には、試験は午前(多肢選択式)と午後(記述式等)に分けて実施されている。

2.2 初級システムアドミニストレータ試験

ITパスポート試験の前身として、初級システムアドミニストレータ試験(以下、初級シスアド)が実施されていた。これは、第一種情報処理技術者・第二種情報処理技術者などがコンピュータの技術者の試験であるのに対して、この試験の対象者は、情報システムの利用者側、つまりプログラマーとかEUC(End User Computing: 情報システムを専門に扱う部門以外の人が、業務効率の向上・改善などを目的として、担当する業務の情報化を利用者の立場から推進する

者)に係わる人たちを対象とする試験となっている。

また、想定している受験者層としては「高等学校卒業程度の一般知識を有し、1年以上の情報システム活用に関する実務を経験し、EUC環境とツールの利用方法に関する技術を有する者」と受験案内書に記載されていた。

この試験の合格率はおおよそ31%、試験時間は午前・午後ともそれぞれ150分の多肢選択式で、多い年には、年間17万人を超える受験者、6万人を超える合格者があった。(図1)¹⁾

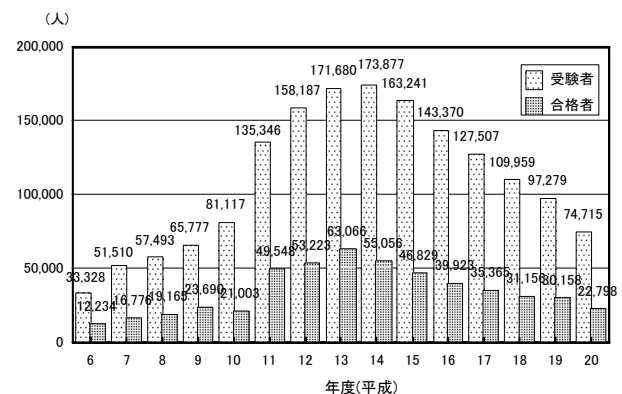


図1 初級システムアドミニストレータ試験推移

2.3 ITパスポート試験創設の背景

2006年10月に産業構造審議会情報経済分科会情報サービス・ソフトウェア小委員会の下に「人材育成ワーキンググループ」が設置され、10年後を見据えた高度IT人材の育成について検討され、翌年「高度IT人材の育成をめざして」という報告書として取りまとめられた。これを基に情報技術者試験制度の見直しが行われた。初級シスアドが、プログラマーとかEUCの推進者という情報の専門的な知識を求める試験だったのに対して、ITパスポートでは「職業人が共通に備えておくべき情報技術に関する基礎知識、職種を選ばず社会人に必要な知識」を測る試験ということが明言されている。これはITの裾野を広めたいという国の指針にも関係している。つまり、なるべく多くの人にこの試験を受験してもらって国家としてのITレベルを上げること考えている。そのために初級シスアドより難易度を下げて、さらに受験しやすいCBT方式の試験にすることで、ITパスポートを受験する人が増えることを狙っている(レベル1の試験^{3) 12) 13)})。

職業人（または、職業人になろうとする人）一人ひとりに求められるIT力とは、パソコンの操作ができる・パソコンを使ってデータの処理ができるレベルに留まらず、「①ITを正しく理解し、業務に積極的に活用し、付加価値を生み出しているか②職場内の課題を把握・分析し、そして解決するためにITをどのように活用すれば有効かを理解しているか③ITを安全に活用するための知識や、企業のコンプライアンス向上に資するための知識を備えているか」などの視点から、ITの基礎的知識を身につけておくことが求められる²⁾。

3. ITパスポート試験

3.1 ITパスポート試験の概要

当初は、春期（4月）と秋期（10月）の年2回実施された。試験時間は165分、出題数は100問あり、多肢選択式（四肢択一）の小問形式が88問（1問につき1設問）と中間形式が3問（1問につき4設問：1つの状況設定に対し、複数の視点から知識・理解を問う）ものである。マークシート形式で解答する。また、出題分野は次の3分野で、ストラテジ系（経営全般）35%程度、マネジメント系（IT管理）25%程度、テクノロジー系（IT技術）40%程度の出題数となっている。試験会場は全国の主要都市（2011年度春期実績：63試験地）で実施された³⁾。

3.2 出題の特色と合格基準

IPAによれば、次のような出題³⁾を特色として挙げている。①業務においてITを活用する上で必要となるITの基礎的な知識、②担当業務を理解する上で必要となる経営全般の基礎知識、③業務を安全に遂行するために必要となるセキュリティに関する知識、④新しい技術動向に関する問題、⑤実務で遭遇する身近な場面を取り上げた問題を織り交ぜて出題ということである。

また、合格の基準は次の①、②の両方を満たす場合となる。①出題3分野（ストラテジ系／マネジメント系／テクノロジー系）ごとの得点がそれぞれ30%以上であること。②3分野の合計得点が60%以上であること。

と。

3.3 受験者状況

過去の受験者と合格者の推移を図2に示す。制度開始から3年間におよそ16.3万人が合格している¹⁾。

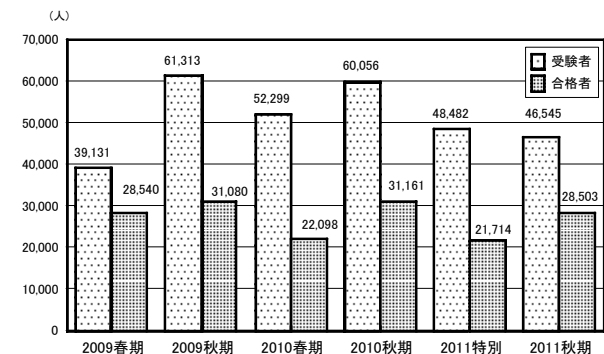


図2 ITパスポート試験の受験者・合格者推移 (2011 特別は、本来春期の試験が7月に延期実施された)

このうち、2010年度分についての詳細を紹介すると全国では約13.5万人の応募、約11.2万人の受験、約5.3万人の合格者があった（合格率47.4%）。なお、福井県内では、応募538人、受験453人、合格197人（合格率43.5%）であった。

一方、受験者と合格者を社会人と学生に区別して比較すると、学生受験者の割合は40%だが、合格者は27%と少ない。つまり、学生の合格率は32.5%であり、社会人の合格率57.2%と比較するとかなり低いことがわかる。

表1 ITパスポート試験 (2010年度分)

		応募者	受験者	受験率	合格者	合格率
社会人計		85,150	67,723	79.5	38,770	57.2
学生計		50,104	44,632	89.1	14,489	32.5
学 生 内 訳	大学院	895	714	79.8	485	67.9
	大学	19,365	16,383	84.6	7,306	44.6
	短大	929	833	89.7	179	21.5
	高専	940	883	93.9	359	40.7
	高校	17,194	16,252	94.5	3,128	19.2
	小中学校	85	79	92.9	27	34.2
	専修学校・ 各種学校	9,995	8,892	89.0	2,790	31.4
	その他	701	596	85.0	215	36.1

また、統計資料¹⁾によれば、応募者は年齢17歳から20歳（高校生、短大・高専生、大学生）が多くなっているが、応募者の平均年齢は春期27.9歳、秋期27.4歳、合格者の平均年齢は春期30.5歳、秋期28.9歳となり、これは社会人応募者が幅広い年齢層に亘っ

ていることが理由である。

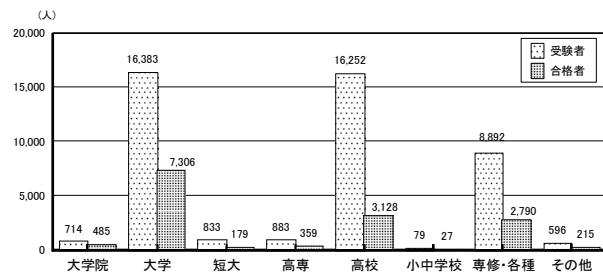


図3 学生の校種別受験者数と合格者数 (2010年度)

学生の合格率では、大学・高専が40%台であるが、高校生では20%を割り込んでいて合格が難しいことが判る。さらに学生全般に言えることには、実務経験が問われるような事例の問題（具体的な事例に基づいて解答する問題）が出題されており、学生には不利な分野となっている。

3.4 ITパスポート試験のCBT形式による実施

2009年開始のITパスポート試験は、春期（4月）と秋期（10月）の年2回筆記試験形式で実施されてきたが、2011年11月25日からCBT（Computer Based Testing）形式での実施が始まり、全国の試験会場（2011年10月27日現在101箇所：従来の筆記試験会場数は63）において随時実施（午前・午後・夕方の3つの時間帯で実施）となり、各試験会場では月1回以上の試験が実施され、利便性が大幅に上がった。

ただし、特例として体の不自由等によりCBT方式で受験できない人のために、従来のように春期（4月）と秋期（10月）の年2回、筆記（マークシート）による方式にて受験ができることになっている。

その他の変更点として、これまでは公開されていた試験問題が非公開となり、第三者に開示（漏洩）しないこと（開示した場合には、関係法令等に基づき損害賠償請求等の措置が取られる）への同意が求められる。

また、採点方式にも変更があった。各問題に配分されるスコアが変動するIRT理論（Item Response Theory：項目応答理論）に基づいて解答結果から評価点を算出方式になり、たとえ正解数が同じ受験者であっても、総得点（スコア）によって差異が生じてくる。つまり、「どの問題を何問正解したか」が重視され

る。これは、初級シスアド試験においても、2003年度（平成15年）春期試験以降、採点方法にIRT方式が採用されている。

出題数の割り振りが変更され、小問：84問、中間：16問（1中間につき4小問出題）へと小問数が減って中間が増えた。総合評価は92問、すなわち分野別評価はストラテジ系32問、マネジメント系23問、テクノロジー系37問で行われる。残りの8問は今後のITパスポート試験で出題する問題を評価するために使われると告知されている。

4. 授業「情報処理演習a」の実践

4.1 授業内容

本学人間学部生（心理・コミュニケーション両学科2年・3年）を対象とした科目「情報処理演習a（前期2単位：選択科目）」において、2009年度からITパスポート試験対応の授業内容を採り入れている（2007年度から2008年度までは初級シスアド対応）。

教科書として「ITパスポート試験対策テキスト平成23年度版¹⁵⁾（FOM出版：約400ページ）」を使用している。同書はITパスポート試験範囲をくまなく勉強したい場合に適していること、特にストラテジ系・マネジメント系の内容が充実していること、幅広い基本用語の解説があって辞書的な使い方も可能なことなどから受験対策テキストとして定評がある。試験の出題範囲を更に詳細化し、レベル1の知識の幅と深さを体系的に整理・明確化した「シラバス²⁾」（情報処理技術者試験における知識の細目）が策定され、公表されているものに基づいた内容となっている。その概略を記すと、第1章「企業と法務」（企業活動・法務）、第2章「経営管理」（経営管理マネジメント・技術戦略マネジメント・ビジネスインダストリ）、第3章「システム戦略」（システム戦略・システム企画）、第4章「開発技術」（システム開発技術・ソフトウェア開発管理技術）、第5章「プロジェクトマネジメント」、第6章「サービスマネジメント」（サービスマネジメント・システム監査）、第7章「基礎理論」（基礎理論・アルゴリズムとプログラミング）、第8章「コンピュータシステム」（コンピュータ構成要素・システム構成要素・

ソフトウェア・ハードウェア)、第9章「技術要素」(ヒューマンインターフェース・マルチメディア・データベース・ネットワーク・セキュリティ)である。

授業では、この教科書および演習課題としてITパスポート試験の2009年から2年分の過去問題を解くことと、その解答について簡単に解説をしている(計算問題に関しては、解法は原則として板書した)。

4.2 受講者の状況

2011年度前期の受講登録時の受講者数は62人であったが、中途放棄者数は期末試験時点において19人(放棄率31%)と多く、最終的に試験を受けた人数は43人(内訳を表2に示す)であった。また、平均欠席回数を調べると男子2.9回、女子2.3回となっており、欠席のなかった受講者は女子2人(無遅刻)だけであった。また、開講が1限目ということが関係しているかも知れないが、遅刻の数もかなりの数(平均1.8回)であった。学科男女別に分けてみると、欠席回数・遅刻回数は心理女子が2.0回、0.6回と共に最少であった(図4)。

表2 受講者内訳(期末時点)

学年	学 科	男	女	合 計
2年	心 理	1	5	6
	コミュニケーション	10	7	17
3年	心 理	0	3	3
	コミュニケーション	1	8	9
4年	心 理	3	3	6
	コミュニケーション	2	0	2
小計	心 理	4	11	15
	コミュニケーション	13	15	28
合 計		17	26	43

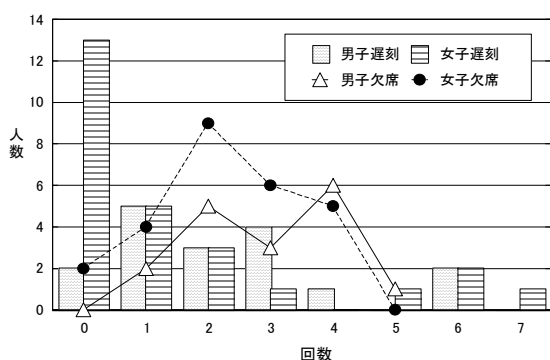


図4 受講者の欠席回数と遅刻回数

4.3 期末試験

期末試験の問題は、ITパスポート試験(以降、本試験という)に類似した形式を採り入れた。すなわち、出題分野・割合についても本試験並みを目指した。解答に要する時間についても本試験に近い時間配分、つまり多肢選択式(四肢択一)の場合、一問当たり1.6分という解答時間を目標として、試験問題を準備した(ただし、中間形式問題の出題は除外した)。

表3 試験問題の出題数

出題分野	ITパスポート試験	情報処理演習a 期末試験			
		選択問題(四肢択一)		計算問題	
		出題数	必答数	出題数	必答数
ストラテジ系	35%程度	20	14	5	4
マネジメント系	25%程度	16	12	3	2
テクノロジー系	40%程度	23	18	7	6
合 計	100問 全問解答	59	44	15	12

①用語に関する問題：本試験の過去問題(2009年春季～2010年秋期)から59問を抽出した。その中から、表3のようにストラテジ系を約32%、マネジメント系を約27%、テクノロジー系から約41%を必答数として指定し、四肢択一式で解答させた。②計算問題：同様に過去問題の改題をも含めて、表3に示したような出題数とした。また、応用力を養う必要から、選択肢の中から正答を単に選ぶのではなく、選択肢の提示はせずに、自らの計算によって解答を算出させる方式とした(試験要領として試験前の授業時に周知した)。なお、計算過程の明記によって、中間配点もできるようにした。したがって、配点は四肢択一問題の2倍とした。分野別の必答数の割合は、本試験の出題割合から多少ずれたが、ストラテジ系を約33%、マネジメント系を約17%、テクノロジー系を約50%であった。

4.4 試験結果

試験の結果得られた得点(成績)について表4・表5に示す。全体の平均得点は57.96(標準偏差24.22)、学科別では心理学科71.47(同17.89)コミュニケーション学科51.37(同23.69)であった。さらに、男女で細分すると、心理男子76.8、心理女子69.5、コミュニケーション(以降コミと略記)男子44.4、コミ女子56.2と明らかなグループ差が見られた。学科別・男女別・問題種別(四肢択一・計算)の正答率の得点分

布を図5に示す。

表4 学科別正答率

出題分野	選択問題(四肢択一)		計算問題	
	心理	コミ	心理	コミ
ストラテジ系	80.7%	56.3%	49.2%	29.5%
マネジメント系	74.2%	58.8%	71.7%	50.9%
テクノロジー系	82.6%	58.4%	56.1%	38.7%
全 体	79.7%	57.8%	56.4%	37.6%

表5 男女別正答率

出題分野	選択問題(四肢択一)			計算問題		
	男子	女子	全体	男子	女子	全体
ストラテジ系	60.0%	68.0%	64.8%	36.0%	36.5%	36.3%
マネジメント系	57.8%	68.3%	64.1%	41.2%	69.2%	58.1%
テクノロジー系	58.5%	72.3%	66.9%	41.7%	46.8%	44.8%
全 体	58.8%	69.8%	65.5%	39.7%	47.1%	44.2%

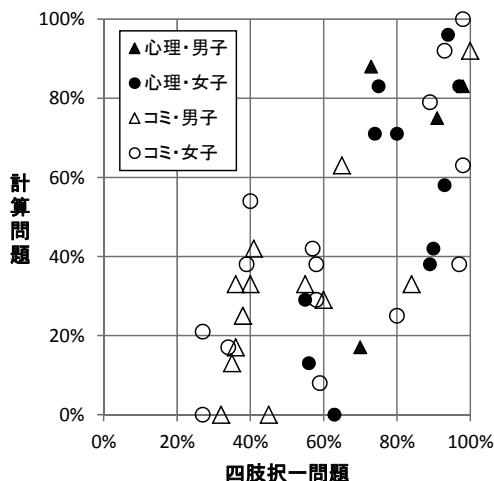


図5 正答率の分布状況

四肢択一問題の正答率は最低値で27%だが、一方では、計算問題の正答率が0～20%という受講者が10人もいることが平均点を下げる大きな要因となっている。来年度の重点内容としては、計算問題対策が必要条件と考えられる。なお、計算問題については学科性別の区別なく正答率が低いが、マネジメント系の計算問題が他の系に比べると一部のグループで正答率が高くなっている。これについては、出題数(必答数)が少なかったことと、アローダイアグラム・作業(進捗)管理、工数管理という類似問題が集まったことで、この分野について得手な受講生にとっては点が取りやすくなったことが影響していると考えられる。

なお、選択式問題では、過去問題と同じ内容のもの

を課したが、これは繰り返し学習によって高得点を得られるもので、もし来年度に割く時間数を減らしても試験得点に与える影響は少なく済むものと考えられる。あるいは、計算問題の出題方法に倣って、過去問題の改題版を混ぜたものに変更する方が好ましいかも知れないので検討したい。

一方、前期(90分×15回=22.5時間)授業時間内で、すべての試験範囲を詳細に採り上げるには時間が不足している。従来の授業終了との兼ね合いから、つまり前期→秋期(10月中旬)の本試験、後期→春期(4月中旬)の本試験までに2か月以上の間が空く状態であった。しかし、この秋からのCBT方式の採用に伴って随時受験ができるため、授業終了頃に本試験に挑戦できるという効果が得られる。授業を通年化することによって、十分な時間を確保し、試験対策にも余裕が持てるので他大学の取り組みなどを参考にして検討したい。

5. 他大学のITパスポート試験への取り組み

5.1 授業科目

他大学(文系)のITパスポート試験に対する取り組み状況について紹介する。

①愛知淑徳大学では、全学共通教育科目の中にコンピュータ活用科目として2科目の開講がされている。ITパスポート試験対策とする内容では「資格取得スキルIa」と「資格取得スキルIb」である(さらに上位の基本情報技術者試験を目指す2科目も開講している)。同大学のホームページ⁴⁾によれば「学生が積極的に資格取得にチャレンジできるよう、国家資格試験を見据えた科目体系で、より資格取得対策を強化した教育内容になっている。一部の資格に対しては検定試験料の全額補助、ならびに成績評価のランクアップ制度(大学が指定する検定試験に合格した場合は、対象科目の成績評価をアップする)を導入するなど、ますます充実するコンピュータ教育で、学生一人ひとりのやる気に応じていく。」と謳っている。

②長岡大学の経済経営学部では、学部共通として次のような6科目が開講されている。「情報処理の基礎1,2(主にストラテジ系の一部である「企業と法務」

「経営戦略」、ストラテジ系の一部(システム戦略)およびマネジメント系(開発技術、プロジェクトマネジメント、サービスマネジメント)「情報システムの基礎1,2(テクノロジー系の「基礎理論」,「コンピュータシステム」)」「コンピュータネットワーク1,2(テクノロジー系の「技術要素」)」である⁵⁾。

両大学では、授業科目として2科目以上を開いているが、本学人間学部の1科目開講では前述のような期末成績からも本試験合格に到達させることが難しいことが言えるので改善に向けて検討する必要がある。

5.2 授業外の取り組み

①跡見学園女子大学⁶⁾では、授業科目「情報処理特別演習」のほかに、TAC提携授業科目(資格の専門学校の講師による授業)を開講しており、秘書検定や公務員試験などの試験に対応した科目があり、大学の単位として認定される。

②獨協大学エクステンションセンター⁷⁾では、上記と同様な専門学校講師による試験対策「情報処理講座」(有料:20日間,延べ50時間+公開模擬)を開講しており、一部の学部生の合格者に対しては単位認定もある。

③大阪経済大学⁸⁾では、関連授業「情報処理技術特講」などのほかに、「ITパスポート試験対策講座」(有料:20日間,延べ60時間)を開講しており、合格者には自己負担分の受験料返還という特典を提供している。

ここで掲げた3大学では、授業および50～60時間余の対策講座という二段構えの形態によって試験合格率の向上を図り、資格取得を推奨している。しかし、本学でこのような体制を整えることには困難が伴うものと考えられるので、授業の充実あるいはeラーニング教材等の学習環境の整備によって、資格取得等を進めていくことが現実的だと考えられる。

6. ITパスポート試験対策

6.1 試験問題

過去の出題では、用語に関する問題が3～4割であり、これは暗記によって確実に得点できる。また、類

似問題も多く出題されていることから過去問題(さらには類似問題)を繰り返し解くことで確実に得点を増やすことができる。過去の6回分が公開されているから、この合計600題については十分な理解とさらには応用力を付けることが合格には不可欠と言える。ただし、CBT対応後については試験問題が非公開となってしまったので、従来のような傾向と対策が立てにくい、少なくとも最新用語等に関する知識を補っていくことは最低限必要であろう。

そのためには、公開されている過去問題をJavaScript利用などによって、簡易な試験対策問題集として自作の学習教材を提供することが可能である。さらに、試験問題の追加公開があればそれらを取り込んで教材の問題数を増やしていくこともでき、過去問題を利用した類似問題なども追加することができる¹⁶⁾。授業の改善案として、例えば、教材の作成を授業受講者全員が分担することで、過重な負担を掛けることなく、試験問題の理解と対策を考える上で有効に働く効果をも得られるのではないと思われる。類似例として、岩手県立総合教育センターでは、Web上で過去問題を利用した教材を提供している¹⁷⁾。

6.2 CBT対応について

試験実施機関のIPAでは実施方法の変更に伴って、実際の受験前に画面や操作方法を体験・確認できるようにするために「ITパスポート試験 疑似体験用ソフトウェア⁹⁾」を提供しており、これを用いて操作練習ができる。本試験の受験前には、必ず体験して慣れておく必要がある。

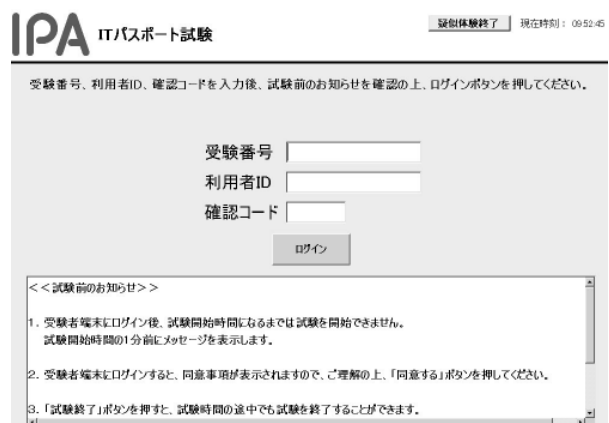


図6 疑似体験用ソフトウェア開始画面

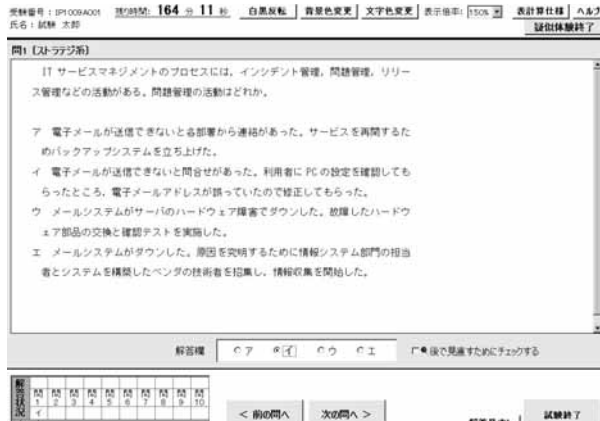


図7 疑似体験用ソフトウェア問題提示画面

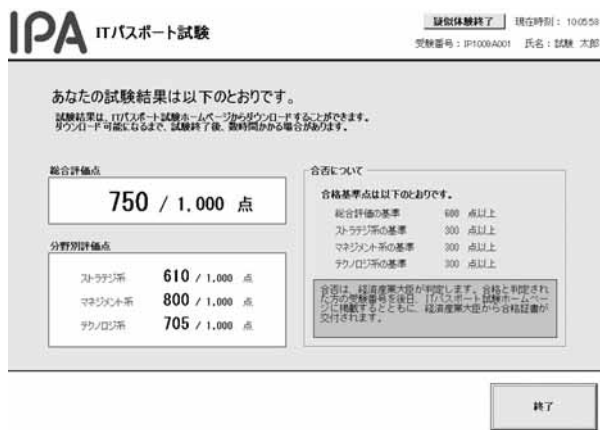


図8 疑似体験用ソフトウェア結果表示画面

図8でも判るように、CBT対応によって試験終了時点で即座に合格結果が判明する。

6.3 eラーニング教材

ITパスポート試験合格のための教材について、提供業者および利用料金について紹介する。

(1) ITパスポート試験特訓テスト(富士通エフ・オー・エム社)¹⁸⁾

ITパスポート試験合格のために必要な実力を養うテスト形式のコンテンツで、試験の傾向を分析し、初級シスアド試験や基本情報技術者試験の過去問題から厳選した問題を予想問題として出題している。このASPサービス型(1か月3150円)を体験する機会を得たが、解説が付くことは当然として、解答の診断結果表示機能が用意されており、レーダーチャートで得意・不得意分野を把握することができる。しかし、ひと月の利用期間では効果を実感することができず、長期間利用できる必要があることを痛感した(なお、企業・

教育機関向けのイントラネット売り切り型は5クライアントで10.5万円)。

(2) 情報処理技術者試験対策シリーズ ITパスポート試験(株式会社ネクストエデュケーションシंक)¹⁹⁾

Webを利用した情報処理技術者試験合格を目指すためのWEBトレーニング教材を2009年から提供している。CBTへの対応化がなされ、1か月、3か月、6か月、全国Web模試、腕試しWeb診断といったコースを提供している。1か月(標準学習時間45時間)では5800円という価格である。

これらのほか、Web環境から模擬試験(実力診断テスト)を受験できるサービス提供している業者もいくつかある。

6.4 テキスト

ITパスポート試験合格のための教材付きテキストを2冊紹介する。

(1) 「ITパスポート合格教本(技術評論社1659円)」¹⁰⁾

DEKIDAS(デキダス)という問題演習(試験対策・学習)ソフトが添付されていて、2年分の過去問題体験とそれらを利用した予想問題、さらに3種類の独自編集による予想問題が体験できる。また、問題をユーザーが任意に選択したジャンルから出題させることや、格納されているすべての問題の中から100問をランダムに選択して出題することなどができる。結果については、採点のほか分野別集計がされて、自分の弱点をチェックすることができる。



図9 DEKIDASメニュー画面

模擬試験モード以外では、1問ずつ解きながら即座に正解かどうかをチェックすることができるが、問題に関する解説は用意されていない。問題文は画像ファ

イルとして収録されたものを利用している（なお、2011年12月2日発行の「平成24年度ITパスポート教本CBT対応版」では、問題数として合計900問を収録となっている）。

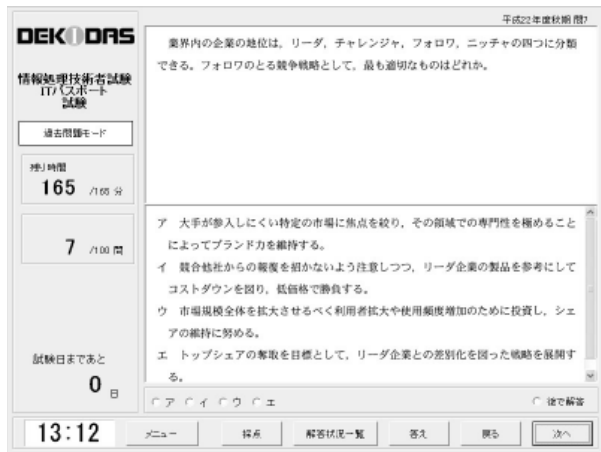


図10 DEKIDAS問題提示画面（2010年12月発行第3版）

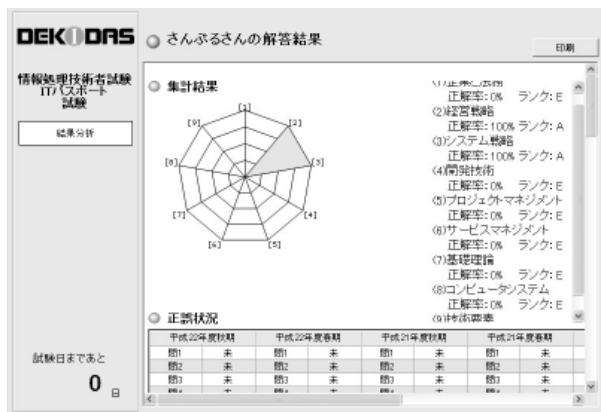


図11 DEKIDAS結果表示画面（2010年12月発行第3版）

(2)「ITパスポート試験対策テキストCBT試験対応版（FOM出版2310円）」¹¹⁾

過去2年分4回の過去問題が収録されている。IPAが提供している疑似体験ソフトの画面（図7）と似通った作りとなっている。問題文と解説文は画像ファイルとして用意されていて、XMLで構成されている。先に紹介したDEKIDASと同様に、ランダムに問題を提示させたり、出題分野、問題数、解答時間などを利用者が設定することも可能になっている。結果についてもレーダーチャート表示によって、苦手分野の把握などがやりやすくなっている。今後の改訂版によって、2011年分過去問題が掲載されるかどうかを注目したい。

本試験にCBT方式が導入されたことによって、ペー



図12 問題提示画面



図13 試験結果



図14 問題解説画面

パー試験ではなくパソコンを利用した試験対策が必要になったこと、試験対策テキストに掲載されている問題や対応ソフトウェアの充実が見られることなどにより、これらのテキストは十分にeラーニング教材に匹敵する価値があるものと考えられる。

7. おわりに

授業科目「情報処理演習」におけるITパスポート試験に向けた現在までの取り組みと今後の方向づけについて検討してきた。

eラーニング教材導入に対する費用(買取か年次契約かなどの検討も必要だが)を考えると、比較的安価に入手可能な「学習教材付きテキスト」の利用は、大学の授業および大学での自学自習、さらに自宅学習で利用が共にできるというメリットが挙げられる。

さらに、受講学生自身が過去問題などを参考にし、発展問題等の試験問題作成という演習課題を課すといったような取り組みを交えることによって、学習効果の向上に繋がられるかどうかを検討していきたいと考えている。

引用文献

- 1) (財)情報処理技術者試験センター：情報処理技術者試験 統計情報
http://www.jitec.ipa.go.jp/1_07toukei/_index_toukei.html
- 2) (財)情報処理技術者試験センター：ITパスポート試験 (レベル1) シラバス
http://www.jitec.jp/1_00topic/topic_20080626_syllabus_ip.html
http://www.jitec.ipa.go.jp/1_00topic/topic_20081027_syllabus_ip_ver1_1.pdf (改訂版 Ver 1.1)
- 3) (財)情報処理技術者試験センター：ITパスポート試験について
http://www.jitec.ipa.go.jp/1_00campaign/explain/about.html
- 4) 愛知淑徳大学
<http://www.aasa.ac.jp/welcome/faculty/skil/pc.html>
- 5) 長岡大学
http://www.nagaokauniv.ac.jp/m-gakubu/kamoku22_s1.html
- 6) 跡見学園女子大学：ガイドブック2012
<http://www.atomi.ac.jp/daigaku/>
- 7) 獨協大学エクステンションセンター
http://www.dokkyo.ac.jp/extension/career01_02_j.html
- 8) 大阪経済大学
<http://www.osaka-ue.ac.jp/sikaku/data/28.pdf>
- 9) (財)情報処理技術者試験センター：ITパスポート試験疑似体験用ソフトウェア

http://www.jitec.ipa.go.jp/1_00topic/topic_20110706_download.html

- 10) 岡嶋裕史：平成24年度ITパスポート合格教本 CBT対応版,技術評論社 (2011)
岡嶋裕史：平成23年度ITパスポート合格教本,pp.352-357,技術評論社 (2010)
- 11) 富士通エフ・オー・エム株式会社：よくわかるマスター ITパスポート試験対策テキスト CBT対応版,pp.394-413,FOM出版 (2011)

参考文献

- 12) 高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部 (IT戦略本部)
<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/it2/index.html>
<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/it2/kettei/010122gaiyou.html>
<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/it2/enkaku.html>
- 13) 独立行政法人情報処理推進機構：情報処理技術者試験 新試験制度の手引き (2007)
- 14) 独立行政法人情報処理推進機構 新試験制度審議委員会 レベル1試験ワーキンググループ報告書：ITパスポート試験の手引き (2007)
- 15) 富士通エフ・オー・エム株式会社：よくわかるマスター ITパスポート試験対策テキスト平成23年度版, FOM出版 (2011)
- 16) 四択問題作成ツール
<http://www.fureai.or.jp/~irie/webquiz/4taku-s/>
- 17) 岩手県立総合教育センター 情報教育ウェブ
http://www1.iwate-ed.jp/tantou/joho/material/it_pass/index.html
- 18) ITパスポート試験 特訓テスト
http://www.fom.fujitsu.com/elearning/course/itp_ab.html
- 19) エデュケ Webトレーニング教材
http://www.net-eduket.jp/products/net_pt/index.html